

新たな公共交通システム導入可能性調査について

1 公共交通システム導入可能性調査

(1) 調査目的

区内の交通不便地域が密集している地域の現況や住民の移動ニーズを把握し、新たな公共交通システム導入について具体的な検討を行う。

(2) 対象地区

白山三・四丁目、千石二・三丁目、大塚四～六丁目

(3) 調査の概要及び結果

資料5-2「新たな公共交通システム導入可能性調査中間報告書」（以下「報告書」という。）の通り

- ① 対象地域の「居住者の特性」「移動目的地」「(既存の) 移動手段」「移動環境」の4つの要素から課題整理を行った。(報告書 p1～p 38)
- ② 各公共交通システムの整理及び先行自治体事例について調査を行った。(報告書 p39～p 53)
- ③ 対象地域の課題に対応する公共交通システムとして、コミュニティバス、定時路線型乗合タクシー、デマンド型乗合タクシー、グリーンスローモビリティの4案が提案され、3段階での評価を行った。(報告書 p 54～p 79)

区分	運行概要					評価						
	使用車両	路線距離	所用時間	運行間隔	運賃	交通不便地域の解消	移動ニーズへの対応	移動環境への対応	交通ネットワーク	経済性	合計得点	
A案	コミュニティバス	日野自動車 ポンチョ	10km	60分程度	20分 (39便/1日)	100円	△1点	○2点	△1点	◎3点	△1点	8点
B案	定時路線型乗合タクシー	トヨタ ハイエース	5km	30分程度	40分 (14便/1日)	100円	○2点	○2点	○2点	○2点	○2点	10点
C案	デマンド型乗合タクシー	トヨタ ハイエース	路線なし	—	—	200円	○2点	◎3点	○2点	△1点	△1点	9点
D案	グリーンスローモビリティ	TAJIMA NAO-6J	3～4km	20分程度	60分 (8便/1日)	100円	○2点	△1点	△1点	○2点	△1点	7点

表 提案された運行方式の概要と評価

2 地域住民移動ニーズ把握調査等

(1) 区民アンケート

住民の移動実態・ニーズを適切に把握するために、既存鉄道駅・バス停等の利用状況及び新たな公共交通システムの利用意向等にアンケートを実施した。

① 地域住民移動ニーズ把握調査

ア 対象者

調査対象地域に居住する者のうち 18 歳以上の男女 3,000 人（無作為抽出）

イ 調査方法

調査票を郵送配付し、郵送又は WEB 回答により回収

ウ 調査期間

令和 7 年 1 月 8 日（水）から 1 月 24 日（金）まで

エ 回答数

1,011 人（1 月 29 日時点）

② WEB アンケート

ア 対象者

区内在住者

イ 調査方法

区ホームページに掲載するアンケートフォーム（logo フォーム）により回収

ウ 調査期間

令和 7 年 1 月 8 日（水）から 1 月 24 日（金）まで

エ 回答数

302 人

(2) パネル展示型説明会

対象地域の課題や各運行方式に関するパネル展示をご覧いただき、不明な点等は担当者が説明を行った。

日程	時間	会場	来場者数
1 月 29 日（水）	午前 10 時 ～午後 4 時	文京シビックセンター ギャラリーシビック	115 人
1 月 31 日（金）		大塚地域活動センター 多目的室 A	7 人
2 月 1 日（土）		大原地域活動センター 多目的室 B	21 人

3 公共交通システム導入可能性調査を踏まえた今後の取組

公共交通システム導入可能性調査の結果に基づき、今後は以下の通り取り組みを行う。

- ・令和 7 年 2 月 4 日 地域公共交通会議（調査書等の報告）
- ・令和 7 年 4 月以降 実証実験に向けて検討・準備
 - 区内交通事業者から意見聴取、
地域公共交通会議（実証実験案の協議）、
パブリックコメント、議会報告を経て、実証実験実施に着手